

恵方について

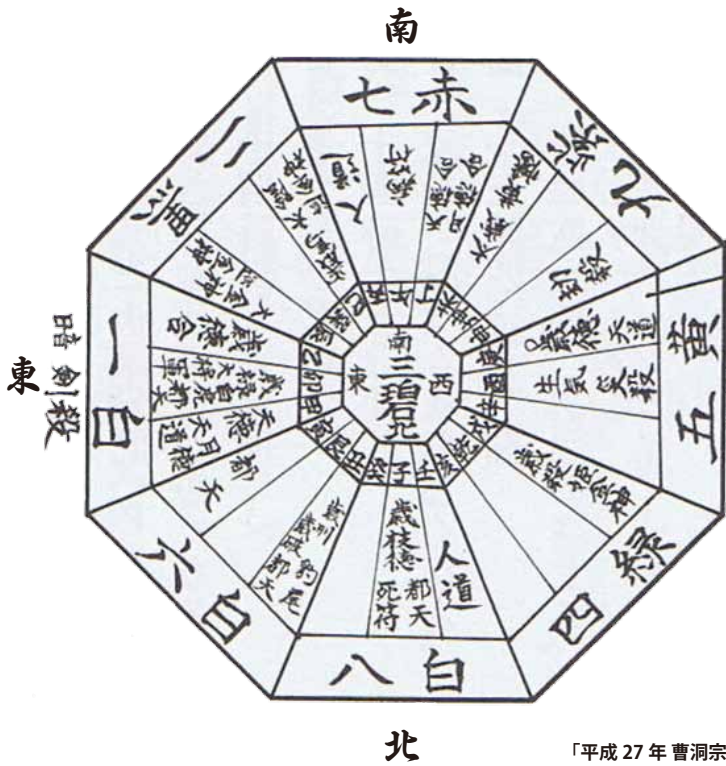
平成二十七年 乙未

恵方

西南西

尾張四観音 荒子観音

恵方



「平成27年 曹洞宗家庭暦」より

●恵方と尾張四観音 <中心恵方> 大須観音

十干	恵方	西暦	尾張四観音
乙・庚	西南西	2015年・2020年	荒子観音
丙・辛 戊・癸	南南東	2016年・2021年 2018年・2023年	笠寺観音
丁・壬	北北西	2017年・2022年	甚目寺観音
甲・己	東北東	2019年・2024年	龍泉寺

※尾張四観音の順番(中心恵方は常に「大須観音」)
(1)笠寺観音⇒(2)龍泉寺⇒(3)荒子観音⇒(4)笠寺観音⇒(5)甚目寺観音

【凶方位について】凶方位は年によって、またそれぞれの人によっても様々で諸説ある。しかし鬼門(きもん)は常に北東にあり、鬼が出入りする方角であるとして、万事に忌むべき方角。また鬼門と反対の南西の方角を裏鬼門(うらきもん)と言い、この方角も忌み嫌われる。

恵方とは、その年の最も良いとされる方角で、十干(じゅかん)によつて決まります。恵方にはその年の福徳を司る神・歳徳神(としとくじん)が降臨していますので、立春(節分の翌日)から翌年の節分までの一年間、諸々のことにおいて、その方向に向かって事を行うと大吉です。

分の生まれた年に還つたという意味。今年の十干は「乙未」です。十干が「乙未」の年、恵方は西南西です。

恵方巻を食べて、幸運を引き寄せましょう。

二月三日(火)十一時〜境内にて恵方巻を限定販売します。節分の夜に恵方に向かって無言で、願い事を思い浮かべながら太巻きを丸かじりすると願いが叶うと言われています。



尾張四観音

平成二十七年は荒子観音になります。

尾張四観音(おわりしかんのん)は、尾張国の代表的な四つの観音寺で、中川区の荒子観音、あま市の甚目寺観音、守山区の龍泉寺観音、南区の笠寺観音を指し、いずれの開基から千数百年以上の歴史があります。四つの観音寺は名古屋城を中心にはば四方に分散する形で立地しており、その年の恵方に近い寺に参拝に行くと、利益(りやく)が多いとされ、特に盛大な節分会が行われます。尾張四観音は、およそ四百年前、徳川家康公が名古屋城築城の際、四方の四つの寺を四観音として、名古屋城鎮護のための守護神と定めたことに由来します。

また大須観音は、江戸時代初期に家康の命令により岐阜羽島から現在地に移転した観音寺ですが、四観音には列しません。しかし、尾張四観音の丁度中心に当たる事から「中心恵方」とも言われています。

万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機でクレジットカードが使用できます!

カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽天Edy タッチするだけで簡単精算! 電子マネー「楽天Edy」も使えます!

★24時間最大(平日:1,100円 土日祝:1,500円)

24時間 年中無休

- 昼間(8:00~20:00) 100円/15分
- 夜間(20:00~8:00) 50円/30分

【お問合せ】 052-251-4543

■旧券の交換は管理事務所(万松寺ビル北館1階)または万松寺境内の受付へ。(9時~18時)

ご祈禱・供養は 萬松寺

◆毎月28日はお不動さんの縁日

午後六時〜、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。

からくり人形『信長』は午前10時〜2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

- ◆十一面観世音菩薩：先祖供養、水子供養
- ◆身代り不動明王：厄除け、無病息災、身体健全 病氣平癒、災難消除
- ◆白雪稲荷：商売繁盛、家内安全 各種ご祈禱を受け付けております。ご祈禱の受付は午前10時〜4時半まで。

亀嶽林 萬松寺

お問合せ TEL 052-262-0735

体調の変わり目

厄年の厄払いに

●厄年とは？

厄年とは、厄災が降りかかりやすいとされる年齢（数え年）のこと。前厄・本厄・後厄があります。前厄とは厄の前兆が現れるとされる年で、後厄とは厄のおそれが薄らいでいくとされる年です。陰陽道に起源があると考えられていますが、古来よりこの年齢になると病気や事故などの災難に見まわがちだと言われ、「厄祓い」が行われてきました。実際この時期は体の変調が起こりやすい時期であり、社会的

●ご祈祷の時期は？

厄年における厄祓いは、年

始から節分までに行う事を
お勧めしますが、その時期
で数えます。

●数え年とは？

にも大きく環境が変わる時期でもあります。厄年は数え年で、男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、女性は十九歳・三十三歳・三十七歳・六十一歳です。特に男性の四十二歳と女性の三十三歳は四二（死）三三（さんざん）といつて「大厄（たいやく）」といわれ、その前後の年を前厄・後厄として三年間身を慎みます。

仏教の教えでは、お母さんのおなかの中にいる一年（十月十日）も「いのち」として数えます。生まれたばかりの赤ちゃんは0歳でもその時点で数え年で「一歳」となります。以後お正月（一月一日）を迎えるごとに二歳、三歳……と一歳ずつ増やして数えます。

厄除け祈祷

平成27年 厄年表

男性（数え年）

前厄	本厄	後厄
平成4年生 24歳 (1992年生)	平成3年生 25歳 (1991年生)	平成2年生 26歳 (1990年生)
昭和50年生 41歳 (1975年生)	昭和49年生 42歳 (1974年生)	昭和48年生 43歳 (1973年生)
昭和31年生 60歳 (1956年生)	昭和30年生 61歳 (1955年生)	昭和29年生 62歳 (1954年生)

女性（数え年）

前厄	本厄	後厄
平成10年生 18歳 (1998年生)	平成9年生 19歳 (1997年生)	平成8年生 20歳 (1996年生)
昭和59年 32歳 (1984年生)	昭和58年 33歳 (1983年生)	昭和57年 34歳 (1982年生)
昭和55年 36歳 (1980年生)	昭和54年 37歳 (1979年生)	昭和53年 38歳 (1978年生)
昭和31年生 60歳 (1956年生)	昭和30年生 61歳 (1955年生)	昭和29年生 62歳 (1954年生)

<ご祈祷について>

申込をされた方ならどなたでもご祈祷を受けられます。まずは境内の受処で申込をして下さい。祈祷申込書に『名前、住所、生年月日』を書いて、ご祈祷料を添えて申し込みます。厄除けのご祈祷料は五千円です。ご祈祷の時間は約15分。詳しくは受処にてお尋ねください。

お寺の歳時記

立春大吉と鎮防火燭

二枚の御札に込められた意味。

当山では節分会においてご祈祷を受けられた方に、二枚の御札、「立春大吉」と「鎮防火燭」の御札を、お渡ししています。

節分の翌日、二月四日は二十四節気の一つ「立春（りっしゅん）」です。暦の上では、春がはじまる日、一年のスタートの日です。立春の早朝、禅寺では門柱に厄除けのための「立春大吉」と書いた札と、火災を防ぐための「鎮防火燭（ちんぼうかしよく）」と書いた札を張ります。「立春大吉」札は立春の慶びとともに家内安全・災難消除・五穀豊穰などの願いが込められ、また「鎮防火燭」札は火の用心の願いが込められています。



御札は玄関の入り口に貼って下さい。外から内に向かって右側に「立春大吉」、左側に「鎮防火燭」を貼りましょう。

立春は冬から春に季節が改まる日であり、節切りの新しいスタートの日でもあります。立春大吉のお札は節分の翌日の早朝、節（立春）に分けられた事を自覚し、幸福な人生を切り開くように、また外から福が入ってくるようにと、家の門柱の右側に貼ります。

鎮防火燭のお札は、本来は三月の節日に貼るものでした。春になると暖かさを感じ冬ごもりしていた虫が外に這い出てきますが、この時期は南風が吹いて火をおおる時期でもあり、その為、火を

ちんぼうかしよく

不浄火にするな（火を汚すな）と昔の人は考えていました。不浄火とは火虫（灯火を慕って来る虫）のわいた火のこと。火虫が飛びおどると不審火になると考えられました。お札にある「火」の文字は火を忌みて右端に小さく寄せて書いてあります。鎮防火燭札は門柱の左側に貼ります。



「家庭暦」当山では一月中にご祈祷を受けられた方に「曹洞宗家庭暦」をお配りしています。暦には先人の知恵が集約されており、一年を二十四等分した立春をはじめとする二十四節気も記されています。暦をいつも傍に「今の季節はこういう時期なんだなあ」と、こまやかな季節の移ろいを感じながら日々を過ごされるのも良いでしょう。